

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-024	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Regularly drinking alcohol before sex in the United States: effects of relationship status and alcohol use disorders. 米国における性交渉前の定期的な飲酒：婚姻状況とアルコール使用障害への影響		
執筆者		
Thompson RG Jr, Eaton NR, Hu MC, Grant BF, Hasin DS.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2014 Aug 1;141:167-70. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2014.05.021.		
キーワード		PMID
性交渉前飲酒、アルコール使用障害、婚姻状況		24950638
要 旨		
目的： 性交渉前の飲酒は、性的危険行動や HIV 感染リスクにつながる可能性が高くなる。婚姻状況(独身か既婚)とアルコール使用障害(alcohol use disorders, AUD)の関係は性的危険行動と関連しているが、性交渉前飲酒の予知としての調査は行われていない。本研究では、婚姻状況と AUD の関係が性交渉前の定期的飲酒の可能性を高めるかどうかを国の代表サンプルを用いて検討した。		
方法： 性交渉前飲酒における婚姻状況と AUD の相互作用を性的に積極的な飲酒者(n=17491)対象に解析した。たいてい、あるいはいつも性交渉前に飲酒する場合を性交渉前の定期的飲酒と定義した。		
結果： 婚姻状況(既婚を reference, AOR=3.51; CI=2.59-4.75)と AUD(AOR=6.24; CI=5.16-7.53)は、性交渉前の定期的飲酒と関連した。また、相互作用の検討で AUD のある対象において独身であることが性交渉前飲酒の可能性を高めた。		
結論： 本研究は性交渉前の定期的な飲酒リスクにおける婚姻状況と AUD の重要性を増強した。独身者、特に AUD を持つ独身者に向けた、性交渉前飲酒のリスクに着目した飲酒と HIV 予防に関するメッセージが公衆衛生の立場から必要である。		